

沖縄憲法は、現日本民族の大きな問題である。ヤング・パワーがこれに激発して動乱を起すのは正しい。われわれはこれを了解している。あとはその方法論である。二十六、二十八の本学スト、特に相原のパリケード・ストという激発手段は、世界情勢からして自然なことである。従来の学生対策で学生を押しこめつけることは許さなければならない。学生は流石に、もう止まりません。危険です」といって制止せられてしまった。学生は七〇年を一期生として取り残されたい。それまで力の限り、目的としているならば、それまで力の限り、わゆる戦術面をもっと大きな見通しを立てて考えなければならぬ。二十八日の午後の授業は休講という

### 激烈な手段は自然

学務担当 常勤職員 木下 半 治



なればならない。学生は流石に、もう止まりません。危険です」といって制止せられてしまった。学生は七〇年を一期生として取り残されたい。それまで力の限り、目的としているならば、それまで力の限り、わゆる戦術面をもっと大きな見通しを立てて考えなければならぬ。二十八日の午後の授業は休講という

(政経学部教授)



### 「講義阻止」は遺憾

学長 中川 富、弥

沖縄憲法を要求し行動する。手紙を前々から出しておいだ。二十八日の沖縄デーに関しては、学生には慎重に行動するよう指示を出しておいだし、警察にも導入に際しては、慎重にしろという旨を連絡しておいた。当日の本学前通りで学生と警官隊が衝突したのは大変遺憾である。学生の行動は政治的に原因があると思ふが、それの解決できるものではない。大学人としては同様の理性的行動を希望する。一方では学生が警官に不当な行動を受けられたことは遺憾である。また、除で扱われていた程のことは遺憾である。各教授には、授業の恐れがある場合には、休講しても構わないという

(政経学部教授)



### 「ハラハラ」見守る

学生部長 松 田 孝

ある学生が、学生にも講義を放棄する権利はあるのではないか、という学生が、その日の学生の本学ストに関する問題について、教授は必ずしも学生に同意してはならないが、その日の学生の本学ストは、関係のない学生の不当逮捕という事態にはあつた。あらかじめ学生会に申し入れておいた。学生諸君が快く承諾して入れてくれたので、安心はしたが、ハラハラして見守っていたのである。大層に愛おしかったことは、せめてもの幸いであつたと思う。二十六日から二十八日の本学スト、二十八日の学生の一連の行動、本学前通りとか新橋・渋谷における機動隊との衝突については、学生部長という立場からして難しい問題であるが、これらの論評をまじ控えない。

(文学部教授)